「くまの木」ヒトとムシの楽園プロジェクト

会報ムシプロ２３号　　２０１９年４月

ツマキチョウ（シロチョウ科）

目次

1. ムシプロだより・・・・・・・・・・・・・２

2. 自然の愉しみ方（春）・・・・・・・・・ ６

3. 特集：春の妖精・カタクリ（２０１９）・ ８

4. 事務局より・・・・・・・・・・・・・・１２

今月の表紙・・・・・・・・・・・・・・・１２

「変異」を追加しました

1.　ムシプロだより

遠藤　正久

高山植物が花開くとき元気よくチョウが飛び交います。

ザックの重量を減らすため持っていくのはコンパクトデジカメ一台なので、チョウの撮影は至難の業です。　遠方から撮ると被写体が小さすぎ、近づいて撮ろうとすると「さよーならー」と見えなくなってしまいます。登山道を外れて追いかけることもできません。
コースタイムを大分オーバーし、「縦走登山とチョウの撮影は両立しないなー」と反省しながらテント場に急ぎます。

クジャクチョウとミネウスユキソウ（仙丈ケ岳）

クモマベニヒカゲ（聖岳）

アサギマダラ（聖岳）

キアゲハ（妙高山）

吉田　義秀

いよいよ春がきました。モンシロチョウも飛ぶようになり、
自宅で保存していた、ウラゴマダラシジミも孵化が始まりました。
卵は、麦わら帽子のような独特な形をしていて、産卵して間もないころは、
きれいなピンク色をしています。

麦わら帽子のような独特な形をした卵。
卵で冬を越す。

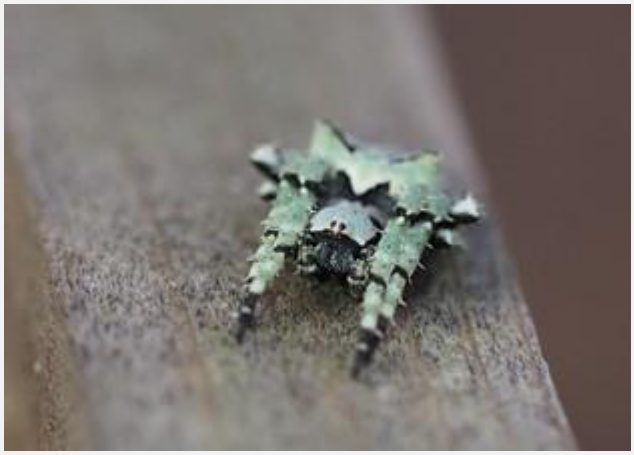
幼虫。
イボタノキ（モクセイ科）が食樹。

成虫。
５月ごろから出現する。
「ゼフィルス」と呼ばれる仲間の一種。

熊谷　義昭

千葉市の泉自然公園で撮影しました。
珍しいクモ（コケオニグモ）が撮影できたので写真を送ります。
千葉県の RD-A（レッドデータ、最重要保護生物）となっています。
体長 1cm 弱だったので幼体と思われます。

公園内の木製手すりの上にいたのですぐに判りました。桜の幹などに繁った地衣類（ウメノキゴケの仲間等）の上に静止していると体の模様がコケと同化してそこにいることになかなか気づきません。



西野　孝法

「ミソサザイ」に夢中です。
体長約１０センチと小さく、体の色が地味で背景に溶け込みカメラの焦点が合いません。おかげで写真は、ピンボケの山です。さらにちょこまかと動き回るので、「ピントが合った！」と思ったらお尻しか写っていませんでした（笑）。こちらが遊ばれているように思えてきます。

３月下旬、ようやく明るいところに出てきてくれたので、可愛らしい姿を捉えることができました。

2.　　自然の愉しみ方（春）

■　春の妖精「スプリングエフェメラル」を深堀りする

「スプリングエフェメラル」とは、「春のはかない命」という意味で、林の樹木が芽吹く前に花を咲かせ、樹木が葉を広げて林床に日が当たらなくなる頃に地上から姿を消して休眠してしまう植物をさす。この花たちにあわせたように姿を現す蝶も「スプリングエフェメラル」と呼ばれている。

　春は、天気が変わりやすく汗ばむときもあれば、霜が降りるときもある。急な天候の変化に対応できる春の妖精たちの特長を挙げてみた。

（写真/文　西野　孝法）

植物の特長

- ◆　背丈が低い
- ◆　背丈に対して花が大きい
- ◆　球根に栄養を蓄える
- ◆　ムシにより受粉する

アズマイチゲ（キンポウゲ科）

カタクリ（ユリ科）

イチリンソウ（キンポウゲ科）

ムシの特長

- ◆　長い毛に覆われている
- ◆　羽の裏の模様が迷彩模様（周りの景色に溶け込む模様）

ギフチョウ

コツバメ（撮影　吉田）

ツマキチョウ

スプリングエフェメラルでは、ないけれども・・・・
（春だけに見られる季節限定のムシ）

僕も、長い毛に覆われているよ！
（ビロードツリアブ）

私の翅も迷彩模様よ！
（ミヤマセセリ　メス）

羽化の時期をずらすツマキチョウ

早春の花にあわせて出現することや一年の大半を蛹で過ごすことだけでも十分に興味深いが、飼育においてさらに興味深いことがあった。

2010 年に庭で２頭の幼虫を採集し飼育したところ、一頭は、2011 年の３月に羽化し、もう一頭は 2012 年の４月に羽化した。この一頭は、蛹の期間が足かけ３年（2010～2012 年）なのだ。まったく同じ環境で飼育したのにこのような違いが出るのがとても不思議だ。

もしかしたら、不安定な早春の気候を乗り切るための戦略なのかもしれない・・・

2010 年 6 月に蛹になった

2012 年 4 月に羽化した

3.　　特集：春の妖精・カタクリ（２０１９）

■　基礎知識

木々の葉が開かない早春の雑木林などの林床に咲く。二枚の葉の間から花茎を一本伸ばし、先端に赤紫の花を咲かせる。花期は３月中旬～４月中旬で、一年のうち約１０ヶ月近くを地下で休眠する。

種から花が咲くまで７～８年かかるとされている。何年咲くのか？など、未だわからないことが多くある。

・花びらは、６枚（外側に３枚、内側に３枚）。「がく」が無いので、外側の３枚が「がく」の役割を果たしている。

・めしべ：先が三つに分かれている。

・おしべ：６本、短いもの（３本）と長いもの（３本）がある。

■　魅力

①　枯葉を貫く芽

カタクリの芽は、落ち葉を貫く。なぜ落ち葉が持ち上がらないのか不思議だ。

落ち葉を身にまとったカタクリ

落ち葉を貫いて花を咲かせたカタクリ。「落ち葉のドレス」を着ているようにも見えるし、寒さから身を守るため「落ち葉のマフラー」を巻いているようにも見える。こんなことを考えるのもまた楽しい！

② よく動く花弁（はなびら）

カタクリの花弁（はなびら）は、よく動く。観察をしていると天気によって花の開き方が違うのに気づく。

花弁（はなびら）は、日の出とともに開きはじめ、やがて反り返る。そして、日暮れとともに閉じる。群生地では、生えている場所によって日の当たり方が違うので同じ時間でも様々な開き方をしているカタクリに出会うことができる。

日の出とともに開き、
日暮れとともに閉じる

外側の３枚から開き始める

６枚の花弁が見事に反り返った

外側に続き、内側の３枚が開き始める

反りすぎた？花弁（はなびら）

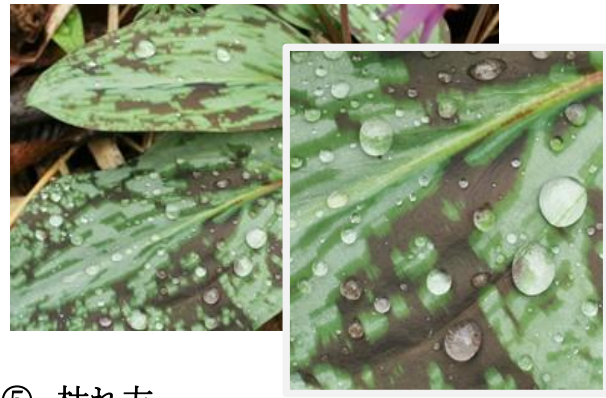
たまに、花弁（はなびら）が反りすぎた？ものを見かける。なかには、風車のようになっているものまである。「元に戻るのだろうか？」と心配になる。

まるで、風車のようだ

③ 花ごとに違う蜜標（みつひょう）

カタクリの花弁（はなびら）には蜜標（みつひょう）という模様がある。花を訪れるムシに蜜の場所を教えるためのものと言われている。
下を向いている花を地面に寝て下から覗いてみよう。蜜標は、ほぼ同じ形をしているが、よく見ると色、線の太さ、形が少しずつ違っているのがわかる。
花の入り口にある蜜標に私も誘われる。

④ 葉の模様（迷彩模様）



カタクリの葉の模様は、同じものが二つとない迷彩模様になっている。よく見ると紫色の模様の周りが濃い緑色の線で淵どられているのがわかる。つまり三色迷彩なのだ。
複雑な模様をじっと見ていると、「不思議な文字？」が浮かび上がってくる。
見えてきましたか？

⑤ 枯れ方

花の時期が終わるころ、コナラ・クヌギの若葉が大きくなり雑木林の中は暗くなる。
陽の光を受けられなくなったカタクリは、休眠の準備に入る。この時の葉の枯れ方が実に神秘的である。色が抜けて透明になり地面に吸い込まれるように消えていくのである。

⑥ 変異

カタクリに興味を持ってから春になると群生地を訪ねるようになった。そして、白い花のカタクリがあることを知った。白い花は、数万本に一本の確立と言われている。紫色の絨毯の中にひっそりと咲く**「白い妖精」**、一目会ったその時から虜になってしまう。

左は、白い花の拡大である。
花びらだけでなく、雌しべも雄しべの花粉も白い。
蜜標（みつひょう）は、淡い黄色である。
こんなに清楚な花を見たことない。
「夢を見ているのではないか？」と思ってしまう。

白い花のカタクリの蕾である。
当然のことながら白い。さらに葉の模様まで白いのである。
「花びらを開き始める場面に立ち会いたい！」と胸が高鳴る。

葉の変異

模様が無い

紫と白の模様が混じっている

（写真・文　西野　孝法）

4.　　事務局より

会報の「**表紙**」と「**自然の愉しみ方**」で紹介した画像をイメージゲートウエイに登録しています。Word に貼りつけてある画像より綺麗です、ご覧ください。アドレスは以下のとおりです。パスワードは、必要ありません。
https://opa.cig2.imagegateway.net/s/cp/DMCYuTBGLSE
画像はダウンロードできます。

２０１９年４月１日発行

発行：　くまの木ヒトとムシの楽園プロジェクト

編集責任者：　西野　孝法

〒262-００２６　千葉県　千葉市　花見川区瑞穂３-３-２６

TEL: 090-9327-5606

Ｅメール：harukan@ac.auone-net.jp

今月の表紙

見ごろを迎えた花見川の桜

２月の中旬ごろから陽射しが力強くなる。TV では、桜の開花予想が放送され、フィールドではウグイス、ヒバリの囀りが聞こえ始める。

季節限定の生き物たちとの別れと出会いが入り交じり、「別れの前にもう一度会いたい」「今年も元気な姿を見たい」と私の心が落ち着かなくなる。

そんな落ち着かない心を、いったん穏やかにしてくれるのが「ツマキチョウ」との出会いだ。

春の暖かい日に白い蝶を見かけ、羽の先の黄色を確認して「ツマキチョウ」と分かった時、「今年も会えたね！」と声をかける。

（写真・文　西野　孝法